

不登校児童生徒の理解と対応

～印旛地区不登校等児童生徒サポートセンター

「訪問相談担当教員」として見てきた不登校の現状～

印西市教育センター

指導主事 弘海 由香

<訪問相談担当教員の主な仕事>

- ①定期的な家庭訪問
- ②保護者面談(定期・不定期)
- ③登校支援
- ④教育支援センター体験同行
- ⑤児童・生徒面談
- ⑥ケース会議
- ⑦先生方の個別相談
- ⑧研修会

①定期的な家庭訪問

- ・ 小学1年生～中学3年生
- ・ 週に1回、1時間程度
- ・ 本人の興味関心のある活動
- ・ 不安や悩みを話したり、少し先のことを一緒に考えたり

笑顔になれる時間をつくりたい
～自分らしさを大切にできる時間～

②保護者面談(定期・不定期)

- ・ 1ヶ月に1回(定期)
- ・ 2ヶ月に1回、半月に1回(不定期)
- ・ 日々の不安や悩みを解消する場
- ・ 子どもの小さな変化や成長を感じる場

不安だけど

見通しをもって 安心して
見守ることができるよう

→子どもが安心して休むことができる

③登校支援

- ・ 徒歩と一緒に登校
- ・ 自転車で一緒に登校
- ・ 門タッチ→挨拶→校内教育支援センター
- ・ 給食と一緒に食べて
- ・ 人間関係づくり(お手伝い)→ひとり立ち

④教育支援センター体験同行

- ・バスで通学ルートと一緒に確認
- ・オンデマンドタクシーで
- ・一緒に体験(人間関係づくりのお手伝い)



ひとり立ち

⑤児童・生徒面談

自宅は安全基地



相談室

でおしゃべり

⑥ ケース会議

⑦ 先生方の個別相談

⑧ 研修会

先生方も悩んでいる
どうにかしたいと思っている
でも どうしていいのか・・・

不登校の要因

重なりあっている場合が多い

SC

スクールカウンセラー

本人

- ・不安が強い、繊細
- ・医療、発達
- ・コミュニケーションに自信がない
- ・何らかの原因で無気力になっている

学校

- ・いじめ以外の友人関係(クラス替え)
- ・学業の不振
- ・教師や学校の対応の問題

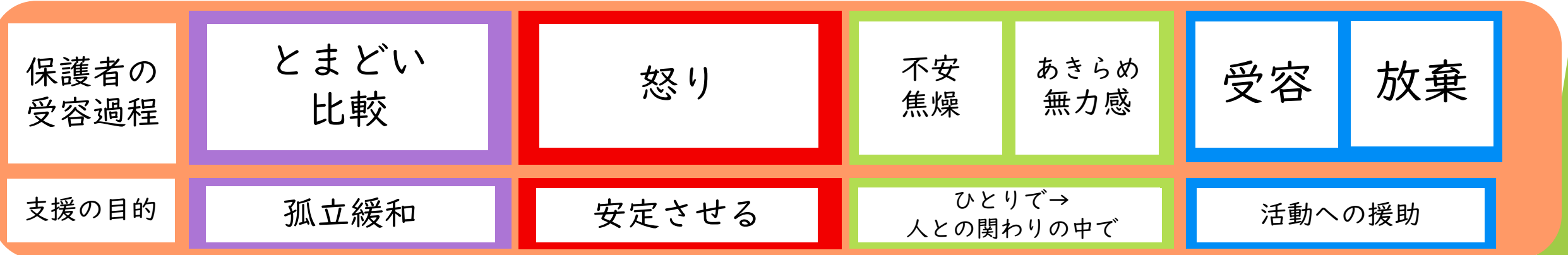
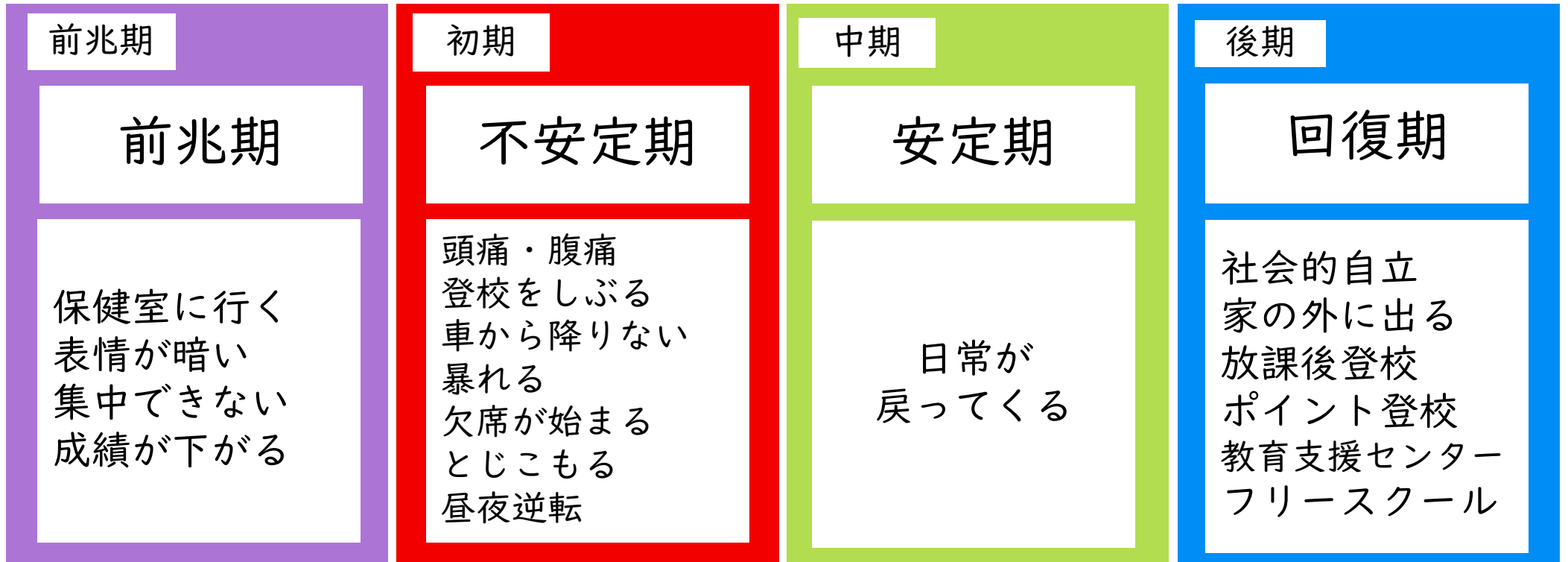
家庭

- ・不適切な養育
- ・家族の病気
- ・家族関係
- ・経済的な逼迫

SSW

スクールソーシャルワーカー

不登校の回復段階



回復段階別 不登校支援(学校用)

前兆期
～孤立緩和～

～未然防止含めて～
児童生徒理解
(要録 学・運・友・特・欠席)

観察・声かけ

～先手必勝！支援スタート！～
保護者に連絡

不安定期
～安定させる～

～60分！座って思いを聴く～
保護者と面談

～勤や経験は危険です！
ひとりひとりオーダーメイド
始まって3日以内に～
見立てる (見立てシート)

～明日からやることがわかる～
ケース会議
「本人の思い」と「見立て」が
ある効果的なケース会議

～保護者の安定が子どもの安定～
保護者とつながり方を確認
(電話・手紙・配布物・家庭訪問)

安定期
～エネルギーを
ためる～

～保護者の安定が子どもの安定～
保護者の
焦りを緩和
(見通しを持てるように支援)

～保護者の安定が子どもの安定～
家庭訪問の
ポイント！
(本人の好き！強みで繋がる)

～不登校の手紙は大切な支援の一つ～
「手紙」の
ポイント！
(本人の好き！強みで繋がる)

回復期
～活動への援助～

～学校復帰の最重要ポイント～
再登校前の準備
・教室環境 (机・ロッカー・掲示物など)
・登校から下校までの流れ

～安心してチャレンジ！続けられる～
放課後登校の
ポイント
(1ステップ3週間～1か月)

～約束守る！安心してチャレンジ！～
部分登校の
ポイント！
(1ステップ3週間～1か月)

～学校だめでも、ここにあるよ！～
教育支援センター
につなぐ
(つなげるタイミング)

不登校支援の目的



学校復帰

25%～30%

社会的自立

進学・就職など 90%～95%

不登校支援の目的

学校復帰

社会的自立

学校以外の
居場所の充実

社会的自立・学校復帰・未然防止をめざして

<学校>

- ・校内教育支援センターの充実
- ・不登校、不登校支援の理解を深める
- ・「教育相談コーディネーター」の育成、配置

<市町>

- ・相談機関の充実
- ・市町教育支援センターの充実
- ・フリースクールとの連携
- ・学校以外の居場所の必要性

学校

自宅

教育支援
センター

フリー
スクール

子どもたちが安心して過ごせる場所で
「安全安心な居場所」をほしい

「本人の思いを大切に」

不登校支援には時間がかかります。本人の状態から回復段階を見立て「本人の思い」を大切にしながら支援していくことが大切だと思います。「とにかく学校に行きたくて欲しい!」「教室に来てほしい!」「これくらいはできるだろう」と周りの大人の考えでおし進めるのではなく、まずは、本人がどうしたいのかを聴いてあげてほしいです。

「登校しぶり」は子ども達の精一杯のSOSです。どうか、子ども達の話聴いてあげてください。話せなければ寄り添ってあげてください。少しゆっくり休んで元気が出てきたら、できそうなこと、したいことをしてみるといいです。自分ができる小さな挑戦を積み重ねていく。本人のペースを大切に、時には休みながら。「本人の思い」「本人のペース」を大切に支援していくことで、いつか子ども達は自分の力で歩いていけるようになるのではないかと思います。

子ども達が、「自分なんてもうだめだ」「生きていても仕方ない」と自分自身や将来に絶望したり、罪悪感に押しつぶされそうになったりすることなく、自分の良さを大切に不登校の時期を豊かに過ごしていけるように支えていけたらと思っています。

「本人の思いを大切に、豊かな不登校の時間を」

弘海 由香